
第9期 事業報告書

(第9期:令和元年5月1日~令和2年4月30日)
期間:2019年5月1日 ~ 2020年4月30日



令和2年6月25日

認定特定非営利活動法人Switch

■はじめに

2020年度のスタートは、コロナ禍の影響により職員がテレワークで支援をするスタイルとなったことは、法人にとっての新しい働き方にもつながった。「対人援助」という職域は、文字のごとく人と直接会って対話をしながらそのひとの悩みや苦悩を聴き寄り添い、一緒に解決の糸口を探していくことでもある。しかし、この変化した社会では、人との距離を保っていかなくてはならなくなった。

さて、私たちはこの状況下でどのように人々の悩みに寄り添っていけばよいのだろうか？

私たちはいまオンライン相談やオンライン講座を実施しているが、そのスタイルにフィットするかのように話せなかった方が悩みを打ち明けてくれるようになったり、自宅という安全地帯の中にいることで安堵感からPC画面の中でのこやかな表情で話してくれる場面がある。

それは、「変化」にいかに柔軟になるか、「想像力」を持って変化に対応するチカラをどう身につけるかを考える時代になったのだと感じる場面のひとつだ。

当法人では、2019年度から新しく若者支援の事業も開始しているが、多様性を認め合う社会をより一層加速させていくためにも、未来ある若者へ何を残していけるのか、その問いを法人全体で考える年になりそうだ。

そして、いつも多くの関係機関や支援機関の皆さま、支援者の皆さまに支えていただき、また利用者さんの笑顔に助けられ、法人運営ができることこの紙面をお借りして感謝申し上げます。

2020年度もどうぞよろしくお願いいたします。



認定 NPO 法人 Switch 理事長 高橋 由佳

■ 認定 NPO 法人 Switch の事業概要

事業の実施に関する事項

I. 就労移行支援に関する事業

(1) 障害福祉サービス事業所「スイッチ・センダイ」就労移行支援

◆成果と今後の課題

年度目標：①登録者数、平均利用人数をあげ、活発な所内にする。②就労移行支援の老舗として、既存の IPS 支援を、幅広い対象者枠（発達、リワーク、難病、学生）に提供する ③講座内容のパッケージ化を模索する④定着支援の在り方を決める

結果：平成 31 年（令和元年）度は、新規登録が 48 名、就職者 26 名であった。昨年度との比較で、新規登録者が大幅に回復し、新規相談者の約半分の人がスイッチに通所を決めるといふ、例年の流れに戻すことができ、目標①は 100%達成できた。就労移行の評価として一番重要である 6 ヶ月定着率は 17 名 85%と、定着率区分最上位を維持している。今年度復職支援と難病支援についても力をいれた。復職支援はより認知度があがり、紹介数が増えているが、難病対象者への支援者周知が難しかったので、目標②の達成度は 60%とする。目標③は講座の整理にとどまったため、達成度は 30%とする。目標④は、定着支援事業の新規開設と、大きな決断をしたが、既存の定着支援との整理に課題が残るため、80%達成とする。

新たな課題として、定着率が前年より低かったことをあげる。これは、利用者からの提出書類不備のため、定着者に入れられなかったためである。就職したのち数か月後には連絡が途絶えてしまう方がいるため、契約時から、退所後の継続的な関わりや、本人に提出していただく就労後の書類等について周知し、理解いただけるようし、就職者をきちんと定着者としてカウントできるようにしたい。

ここ数年、全国展開している株式会社母体の就労移行が仙台支店を出しているが、地域の中で、それぞれの就労移行の特徴が確立、認識された年であった。その中で、登録者が増えたことは成果といえる。引き続き、何かに特化している就労移行支援や福祉事業所ができ、今まで移行支援を検討しなかった方々がつながってくると思われ、就労移行や福祉事業所の活性化は進むと考える。

スイッチ・センダイの特徴や評価ポイントでもある「精神発達に特化・高い就職実績・丁寧な IPS 個別支援」を貫きつつ、地域の中の動向を見極めながら連携し、地域全体の就労支援の底上げにも貢献していきたい。

◆実績（カッコ内は前年比）

新規相談来所数	新規契約者数	年間在籍者実数	就職者数	6 ヶ月定着者数
91 人 (100%)	48 人 (165%)	79 人 (120%)	26 人 (96%)	17 名 85% (77%)

◆新規相談者紹介元内訳（カッコ内は前年比）

病院	役所	相談支援事業所	公共の就労相談機関	その他
21 人 (67%)	20 人 (181%)	8 人 (72%)	8 人 (72%)	34 人 (125%)

* その他

パンフレット/友人・知人/職場/WEB/ その他福祉系サービス（B 型、移行、地活等）/再利用/法人本部事業

◆就職者の状況①：障害開示・非開示の割合（就職者 26 名）

障害開示（A型含）	19人
障害非開示	7人

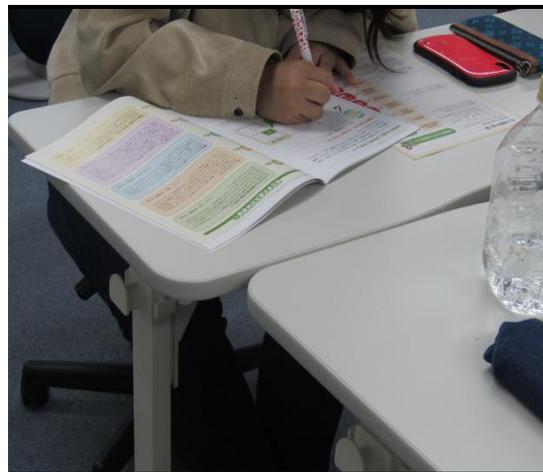
◆就職者の状況②：障害開示者のうち、一般就労とA型就労の割合

一般企業就労	17名
A型事業者就労	2名

◆活動内容

個別担当制の伴走型就労支援（IPS）を実践している。

主なプログラム内容は、認知行動療法、コミュニケーション、セルフケア、就活講座、PC講座、の5つである。



【広報活動】

- ・青葉病院 デイケアメンバーさん見学受け入れ
- ・せんだんホスピタル デイケアメンバーさん見学受け入れ
- ・東北大学病院 デイケアメンバーさん見学受け入れ

- ・武者クリニック デイケアメンバーさん見学受け入れ
- ・就労支援機関 EXPO（労働局主催） ブース出展

就労移行支援 スイッチ・センダイ 管理者 小野彩香

(2) 就労定着支援スイッチ

2019年12月に就労定着支援スイッチを開設した。スイッチでは、外部事業所からの受け入れはせずに、スイッチ・センダイの就職者の長期的フォロー機関として位置付けている。それにより、就労初期は、訪問型職場適応援助、移行支援の定着支援を必要に応じて実施し、6か月経過後は本事業で支援を継続していく体制ですすめた。

新規指定から6ヶ月の状況は利用登録者9名、定着率100%である。スイッチ・センダイからの就職者が随時契約することが見込まれるため、丁寧な定着支援をしていきたい。

課題は、スイッチ・センダイのフォローアップの整理ができていない。OB会と通常の移行支援のフォローアップとの両立はどの程度とするのか、定着支援を利用希望しない人への支援はするのか・しないのか等、次年度の大きな解決課題である。

就労定着支援スイッチ 管理者 小野彩香

(2) 障害福祉サービス事業所「スイッチ・イシノマキ」

◆成果と今後の課題

スイッチ・イシノマキでは就職者3名、就労移行支援や就労継続支援B型サービスへの移行が1名となっている。就職活動がメインの方や、生活面を中心に、リズムを整えて生活することも目標に活動する方など多様な方が利用されている。就職・地域生活の自立など、福祉サービスを必要としている方は多い。一方で地域の特性上福祉サービスを利用することにハードルがあるように見受けられる。引き続き利用者獲得という点が大きい課題となっているので、2020年度も地域や各関係機関との緊密な関係を築き、事業所のアピールや福祉サービスの啓蒙などに取り組んでいきたい。加えて職員の各種知識や、支援スキルなど、石巻圏域全体での研鑽を図る。

◆実績

令和1年度相談件数（件）

10代	20代	30代	40代	50代	60代
2	9	5	2	2	0

男女比

男性	女性
6	14

紹介元

行政機関	相談支援機関	医療機関	ハローワーク	パンフレット	学校	HPメディア	知人・友人・家族	その他
4	9	1	1	0	0	0	3	2

その他の内訳

石巻 NOTE

令和1年度在籍者数

自立訓練（10名）

10代	20代	30代	40代	50代	60代
0	6	2	1	1	0

男女別

男性	女性
5	5

卒業生内訳（退所理由）

就継B	就継A	移行支援	就職	体調不良	期間満了	その他
1	0	0	4 (OP2)	0	0	0

その他内訳

--

◆活動内容

個別の時間での相談を中心に行いながら、日常生活動作の向上、各種講座の参加、ウォーキング・アートプログラム・認知プログラム・コミュニケーション講座・PC講座・就職活動講座・事務軽作業・個別での必要な講座の実施等

スイッチ・イシノマキ サービス管理責任者 山下祐史

Ⅱ 思春期・青年期を中心とした就学・就労支援

(1) ユースサポートカレッジ 仙台 NOTE

◆成果と今後の課題

住友商事東日本再生フォローアッププログラム助成金「みやぎ若者応援プロジェクト」事業2年目として、心に不調を抱えていたり、生きづらさや社会的困難を抱えている思春期・青年期の就労・修学支援を実施。背景には不登校やひきこもり、障害者雇用に該当しないグレーゾーン層の就労サポートなど様々な社会課題があり、多様な課題解決に対応するために関係機関と連携しながら支援を構築し、一定の成果を残すことができた。

又今年度の特徴として、大学生の修学支援の需要が増えたことが挙げられる。大学の学生相談室やキャリア支援課との連携がより強化され、就労支援に加え、居場所支援に力を入れた。休学中やなかなか学校に行けない学生が居場所として利用し、相談やフリースペース、講座や短期インターンなどの様々な体験を通して、復学や次の進路へ一歩踏み出す場所として、学生が孤立しない、社会と繋がりが持てる居場所作りに貢献した。

又昨年より引き続き取り組んだ宮城県大学生ボランティア育成プログラムは、大学生ボランティアの存在が事業運営の戦力となり、法人内の活性化に繋がった。昨年に引き続き利用者と近い目線で接することができる強みを活かし、「身近なサポーター」として活躍して頂き、法人としても大いに刺激となった。

今後の課題としては、継続性のある運営基盤を作っていくことが挙げられる。そのために行行政や支援機関との連携と、昨年より実績を広く発信し活動を認知して頂くため活動を強化していく必要があると考える。

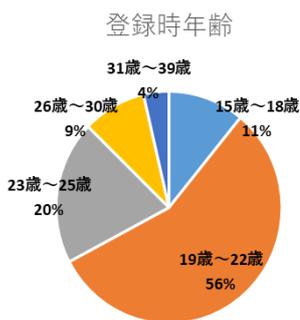
◆実績

1) みやぎ若者応援プロジェクト（ユースサポートカレッジ事業）活動実績

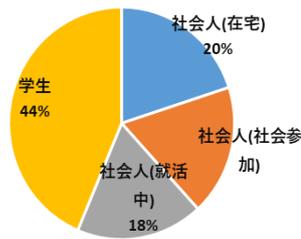
【仙台 NOTE 第9期】

① 就労準備支援事業（相談窓口の設置・講座展開）

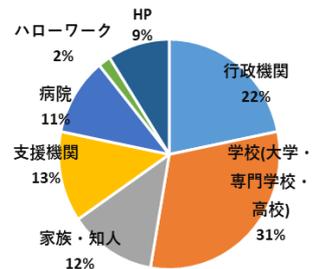
■新規相談(インテーク)件数	63件
■登録者数	55名（男性31名・女性24名）
■延べ利用者数	869名
■相談件数	216件
■就職者数	21名
■進路（進学・就学）決定者数	5名（大学1・専門学校1・職業訓練2・自立支援事業所1）
■修学者件数	4名（大学3名・専門学校1名）



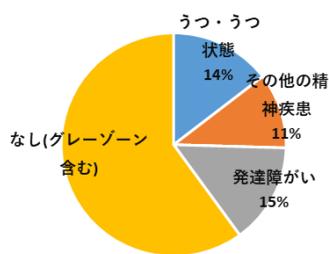
利用前状態



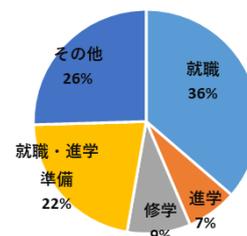
紹介元



特性など



利用後の帰すう



② インターンシップ事業の展開

■インターンシップ件数 37回（延べ40名参加）

インターンシップを通じ、インターン先へそのまま就職決定された方：1名
 インターンシップの経験を就活へと繋げ就職された方：15名
 →就労経験の乏しい若者が社会と接点を持ち、「自分にもできた」と自己効力感が上がり、応募活動へ一歩を踏み出す行動変容を起こすきっかけとして大いに貢献できた。



多様性を企業との連携も

③ 大学生ボランティア育成プログラム

「地域復興×大学生」をテーマに、被災地の現状や被災地域で求められていることを学び、考え、活動を行う。若年支援現場をはじめ、様々な環境での活動をきっかけとして将来的な地域の担い手となっていくことを狙い実施した。

- ・ 第3期生（4月～8月） 7名修了
- ・ 第4期生（8月～2月） 1名修了



2) その他の活動<出張キャリアゼミ>

- ・ 6月 出張キャリア講座<キャリアゼミ>の実施
- ・ 5月～9月 子供未来局仙台市子供相談支援センター（新規・連続講座）
→ 1名仙台 NOTE の利用へ繋がる

3) 卒業生の会（仙台 NOTE CLUB）主体的な居場所 13名登録



◆活動の様子

①各種プログラム(一部)



就活・マナー講座



メンタルヘルス講座



②イスタプログラムupp



③特別講座（外部講師）



【10月】
アロマテラピー講座
こまつまりこ講師



【11月】
入門ヨーガ講座
坂上友恵講師



【1月】
警備のお仕事
株式会社カメイ・セキュリ
ティ・サービス代表取締役
亀井昭様



【2月】
はたらくということ
株式会社北上京だんご本舗
千葉俊作様

(1) ユースサポートカレッジ 石巻 NOTE

◆（成果と今後の課題）

住友商事東日本再生フォローアッププログラム 2017 年度、宮城県 NPO 等の絆力を活かした復興・被災者支援事業の 2 事業を柱に、高校生の進路決定支援、NOTE Café、20 代までの若者の就労支援を実施。

昨年に続き一定数の進路決定者と就職者を出すことが出来た。

圏域に石巻圏域子ども・若者総合相談センターからの相談者、高校の先生方からの理解が増し、接続者数は昨年度より増加傾向にある。

同時に、石巻圏域子ども・若者総合相談センターからの紹介ケースに関しては、今まで以上に複合的な課題を抱えている方の紹介も多く、直接的な支援スキルとともに、他機関との連携においても高度なスキルを求められるものも出てきており、職員のスキル向上とともに他機関連携の強化が急務となっている。

NOTE Café においては、学校により求められることが変わってきており、ある程度各校のニーズに合わせてられるよう柔軟な展開が必要になってきている。また、他校から居場所としてのニーズも見えてきており、今まで実施できていなかったサードプレイスとしての機能を新年度どのように組み立てていくかは今後の課題と考えられる。

◆実績

■高校連携全体

全高校生利用登録数⇒36 名

相談件数⇒477 件（進学 0 : 就職 7）

【NOTE カフェ モデル校 2 校への訪問】

訪問件数⇒45 件 相談活動件数⇒128 件

相談対象実人数 23 人

見学、実習実績 実 2 名参加（見学 2 回、実習 2 回）実施

かかわった方の帰すう（就職：4 名、就活継続：2 名、進級：16 名 退学 1 名）

【モデル校以外の高校生】

・連携学校数 5 校

・企業見学 1 件、インターン 13 件、参加実人数 2 名）

・現在までの帰すう・

就職：3名 就活中：2名 進級3名 復学1名 転学1名 予備校1名 退学1名
福祉サービスへの移行：1名

■ユース相談件数（高校生以外）

実人数 22 名、相談件数 419 件

企業見学・実習 20 件（5 社）9 名参加

就職実績：7 名

◆活動内容

事業所での活動として、本人の興味関心に基づく個別の進路決定サポート、就労支援を実施。法人で使用しているリカバリーシートにてアセスメントを深めながら、併せて VRT や GATB を活用、職場体験等働くをイメージできるためのサポート、一般的な就職活動（求人検索や精査、履歴書の書き方や面接練習等）を行う。

高校生への支援としては事業所をサードプレイスの活用をしながら自身の状況を確認、セルフケアについて検討、各々の現状の確認をしながら学校を含めた関係機関との連携を行い復学や進路の再検討、就労支援を実施。

その中で、状況に合わせて就活、セルフケア、余暇等にフォーカスしたプログラムを実施。

NOTEcafé においては、石巻北高飯野川校と東松島高校の 2 校において、進路指導の先生より紹介を受けた方への就労、進路決定支援を実施。学校により進路指導で対応できない生徒を紹介する学校、多くの生徒を一旦相談につなぎ、本人がサポートを必要とする生徒への継続的な関わりを望む学校等学校によつての特色が今まで以上に色濃く出ており、学校のニーズに合わせて柔軟に訪問。併せて Café の場には大学生ボランティアも参加し、気軽にスタッフと話をしながら参加者が安心して進路決定をできる場を提供。

ユースサポートカレッジ石巻 NOTE 田口雄太

Ⅲ 研究・研修事業

各種研修

・ 2019 年 7 月、2020 年 1 月 認定 NPO 法人アスイク 支援スーパービジョン 実施（対象スタッフ 4～7 名）（小野）

・ 5 月 13 日 仙台市子ども未来局子供相談支援センター 電話相談・・・その先 NPO が担う若者支援の現状

・ 6 月 18 日 柴田町教育委員協議会。青年部研修（高橋）

・ 6 月 19 日 トライ式高等学院 キャリアゼミ 高校生のキャリアデザイン（小関）

・ 6 月 19 日 人事院東北事務局 メンタルヘルス研修（高橋）

・ 7 月 5 日 NPO 法人アスイク キャリアイベント「シゴトーク」 仕事について考えよう！（小関）

- ・ 7月10日 泉南地区民生委員児童委員協議会・青年部（高橋）
- ・ 7月24日 仙台市社会福祉協議会 青葉区事務所 地域で起こっていること～孤立の恐れのある方々をどう支えるか（小関、今野）
- ・ 9月5日 仙台市立大志高校 支援が必要な高校生の就労支援
- ・ 9月10日 仙台市社会福祉協議会 孤立の恐れのある方々をどう支えるか～就労支援の視点から～
- ・ 10月2日 人事院東北事務局 メンタルヘルス研修（高橋）
- ・ 10月25日 河南東中学校 スクールカウンセラー研修（今野、三上）
- ・ 11月 令和元年度ピアサポーター養成研修 講師 「働くということ」（小野）
- ・ 2月21日 株式会社東芝 中堅社員向けメンタルヘルス研修
- ・ 5月31日・6月28日・7月26日・8月30日・9月27日
仙台市子ども未来局子供相談支援センター 出張就活講座

学会、講演など

- ・ 5月13日 仙台市子ども未来局子供相談支援センター 電話相談・・・その先 NPO が担う若者支援の現状（小関）
- ・ 5月15日 仙台市子供相談支援センター電話相談員研修会（小関）
- ・ 6月19日 トライ式高等学院 キャリアゼミ 高校生のキャリアデザイン（小関）
- ・ 7月5日 NPO 法人アスイク キャリアイベント「シゴトーク」 仕事について考えよう！（小関）
- ・ 7月20日 石巻専修大学復興ボランティアEXPO登壇 小野寺、今野
- ・ 7月24日 仙台市社会福祉協議会 青葉区事務所 地域で起こっていること～孤立の恐れのある方々をどう支えるか（小関）
- ・ 9月5日 仙台市立大志高校 支援が必要な高校生の就労支援（小関）
- ・ 9月10日 仙台市社会福祉協議会 孤立の恐れのある方々をどう支えるか～就労支援の視点から～（小関）
- ・ 10月 第10回 ACT 全国研修会 東京大会 シンポジウム①「地域でのクライシスにどう対応するか？」パネリスト登壇（小野）
- ・ 11月4日 生活困窮者自立支援全国研究交流大会 シンポジウム「宮城の子ども・若者支援の今～支援に繋がらない声なき声に繋がるための宮城県の多様な取り組み～」田口

研究協力参加

- ・ 文部科学省若手研究（B）「日本版 IPS／援助付き雇用フィデリティ尺度の検証とフィデリティ評価システムの構築」参加
- ・ 障害者対策総合研究開発事業＜精神分野＞「オリジナルソフトによる認知機能リハビリテーションと援助付き雇用を組み合わせた精神障害者の就労や職場定着の支援の効果の検証と普及方法の開発」参加

- ・「自閉スペクトラム症患者に対するオリジナルソフトを用いた認知機能リハビリテーションの効果検討」参加

会議・委嘱等

- ・2019年6月、9月、2月、3月 仙台市障害者施策推進協議会 委員委嘱（小野）
- ・2019年10月、2020年1月 宮城障害者職業センター 精神・発達障害者雇用支援連絡協議会 協議委員委嘱（小野）
- ・石巻市地域福祉委員会 委員 委嘱（田口）
- ・仙台市産業振興事業団 「働き方改革促進ビジネス委託事業」 審査員委嘱（小関）

V その他事業

（1）ジョブコーチ支援事業

- ・障害者雇用安定助成金（障害者職場適応援助コース）

平成31年（令和元年）度実績

	実対象者数	支援回数	離職者	稼働 JC
31年（令和元年）度	13名	131回	3名	3名

- ・実対象者13名のうち、31年（令和元年）度新規開始者は6名であった。
- ・離職者3名は、定着1年以上～2年未満の離職であり、一人は体調不良、2人はステップアップである。
- ・前年度と比較し、人数、実績共に2-3割減である。理由は、令和元年12月開設の就労定着支援への移行により、JC支援の未実施があるということと、国の通達により、官公庁職員へのJC支援が対象外となったことが大きく影響している。

今後も、就労定着支援事業が長期フォローアップの第一手段となるため、JC支援は、開始初期への集中的介入か、何らかの事情で就労定着支援が利用できないが密な支援が必要と判断される方への方法として、法人のフォローアップを支えていく。

（2）委託事業

【宮城若者こころの支援モデル事業】

- 1) 大学生ゲートキーパー養成講座

1 開催回数

回	月日	対象者	議題等	参加者数
1	10月29日	県内大学生（尚絅学院大学）	ゲートキーパーとして必要な知識を身につけよう！	64名
2	11月5日	県内大学生（尚絅学院大学）	セルフケアを学ぼう！	59名
3	11月12日	県内大学生（尚絅学院大学）	変化に気づく！	63名

内容・アンケート結果等

【内容】

今年度はモデル授業として、尚綱学院大学にて「大学生ゲートキーパー養成講座」を3回実施。現代の自死の状況について正しい理解を促進するとともに、「ゲートキーパー」の正しい知識と能力が身につけ、身近な人に寄り添い支えることのできる学生ゲートキーパーを育成することを目的に講座を実施した。

コンテンツについては当法人のメンタルヘルスに関するノウハウをベースに、尚綱学院大学の内田知宏准教授に監修を依頼、又「自殺学」第一人者である和光大学の末木新准教授に資料提供を頂き作成した。

＜大学生ゲートキーパー養成講座＞（別途添付）

第1回：ゲートキーパーとは・自死の現状と原因・こころの病気について

第2回：ストレスの知識を持とう・自分自身のストレス状態を知ろう・セルフケア

第3回：変化に気づき対処できるようになるには・演習・相談の目安について・様々な相談先・自死予防に関する国として施策、宮城県としての施策

【アンケート結果】

1) 感想（一部抜粋）

- ・自死に対する偏見をなくし、客観的に捉えることが課題だということが今回の授業で分かった。
- ・相談は電話とかLINEでもできると知ったので、自分の気持ちが沈んでいるときや、そういう人がいたときに、声をかけようと思った。
- ・いつ相談されてもいいように、知識をできるだけ入れていきたい。
- ・自分も相談できる相手を見つけていきたい
- ・もし相談されるような機会があれば今回の授業を活かせればと思う。
- ・将来的に自分の周りで悩んでいる人が現れた場合、どういった対応をすればよいのかを学ぶことができた。
- ・今回習ったことを活かしながら相談していきたいと思った。また、自分の心のケアも欠かさずにし、いつまでも精神面では健康に生きていきたいと思った。
- ・相談を受け付けている場所は、自分が相談したいときだけでなく、誰かから相談されたときに紹介できたりもするので、相談できる場所がたくさんあるというのを頭に入れておくことは大事だと思った。
- ・自死に関して悩んでいる人がいたら、しっかり話を聞きたいと思った。自死の前に変化がないか気づけるようになりたい。
- ・友人がこころの問題を抱えているので、傷つけない程度に話を聞いてあげたり、外に連れ出したりして楽しみを見出してみたりいろいろなことを考えながら行動していきたい。
- ・周囲の人間が早く気づくことが大切だと分かった。そして、自分の勝手な決めつけで、相手

の状況を判断せず、相手に耳を傾け、寄り添い、必要に応じて専門機関へとつなげることが大切だと分かった。

・誰かの力を借りることも時に重要かもしれないと思ったので、そういった勇気も大切だと考える

・自分や相手の不調に関する話を聞いて、とてもタメになったと感じた。

・授業を受けて、ゲートキーパーについて学び、自分も周りの人の変化に気づいて声をかけようという気持ちになった。

・授業を通して、自死をする人の心理が以前より分かるようになった。自分が相談される側になったときに、適切な対応ができる自信がついた。

・今後自分が誰かの相談を受けたり、自分が誰かに相談するとき、今までの授業で学んだことを活かしたいと思った。

・身近な人の SOS に気づいてあげられるとともに、自分の心や体の変化にもしっかり気を配ることが大切だと分かった。

・相手が「大丈夫」と話していても、本当は大丈夫ではないのだと理解したので、無理に聞き出すということはず、寄り添うということをしたと思う。

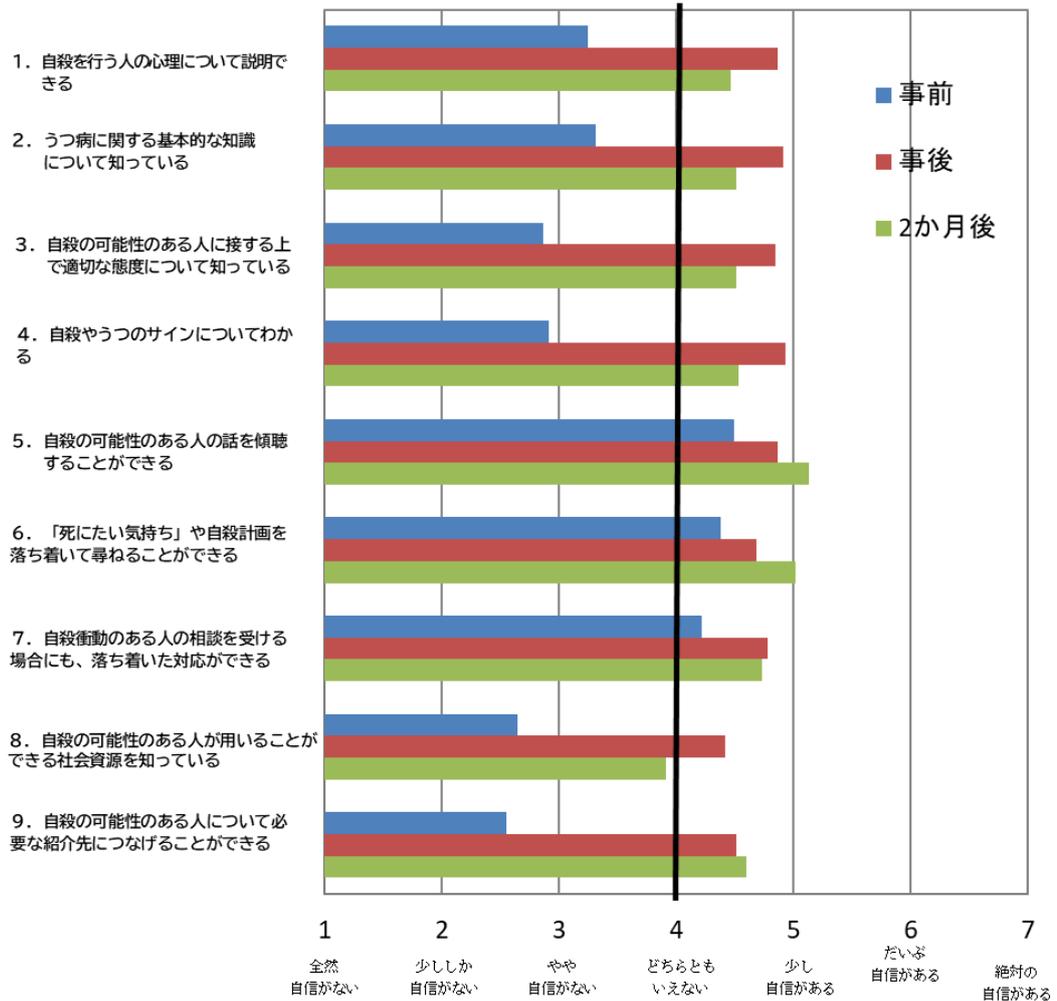
・自分が相談されたことを誰かに話してもいいんだということが分かった。

・身近な人から相談されたら、この授業での知識が役立つと思うし、役立てたいと思う。

・誰か友人などから相談を受けた場合、しっかりと聞き受けたいと思った。

2) 養成講座実施の効果について

(尚綱学院大学より提供。3回すべて回答の学生 45名にて集計)



養成講座実施前、実施直後、2か月後にアンケートを実施し、学生の自死予防に対する意識の変化について調査。実施前と実施後には確実に変化が見られ、特に自死を行う人の心理やうつ病に関する基本知識や自死やうつのサイン、自死の可能性のある人への適切な態度、自死の可能性のある人が用いる社会資源を知り、紹介先につなげる項目については大きな変化があった。またすべての項目で2か月後も効果が継続していたことで、大学生の自死予防に対する啓発活動として大きく効果があったことが伺えた。

2) 若者のメンタルヘルス対策に関する普及啓発

1 研修や講演会等の概要

回	開催予定日	対象者	議題等	参加人数
---	-------	-----	-----	------

1	11月7日	県内大学・若者支援関係者	若者の自死予防を考えるセミナー	31名
2	12月16日	県内大学・若者支援関係者	こころの課題解決ワークショップ	25名

2 普及啓発概要

実施時期	対象者	内容
3月	県内大学生・県内各大学	ゲートキーパーハンドブックの作成

3 実施結果

1) 研修や講演会

①日時：11月7日（木）13:30～16:30

内容：若者の自死予防を考えるセミナー

若者の「死にたい、助けて」にどう対応するか

講師：伊藤 次郎（NPO 法人 OVA 代表理事・精神保健福祉士）

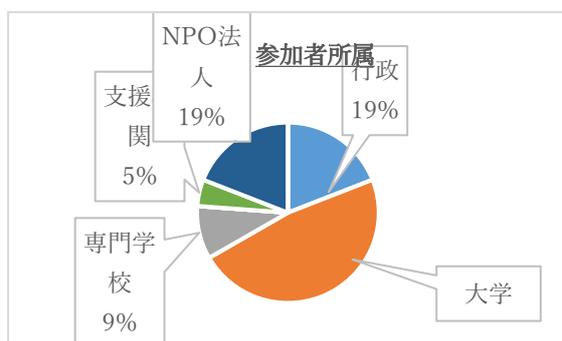
【内容】

「インターネット・ゲートキーパー（夜回り 2.0）」手法を開発・実施し、SNS を活用した自死予防の取り組みについて第一人者でいらっしゃる伊藤次郎氏をお招きし、若者の自死予防対策について考え、対処法について学ぶ機会とした。

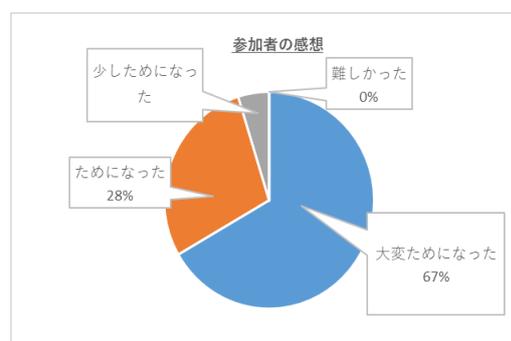
- 1) 若者の自殺の現状を知る
- 2) なぜ「死にたい」に追い込まれるのか
- 3) 若者の SOS が届かない構造について
- 4) 「死にたい」と言われたら（受け止め方）

【アンケート結果】

<参加者属性>



<参加者の感想>



【講座参加者の声（一部抜粋）】

- ・若者にリーチしやすい支援機関のあり方について考えさせられた。
- ・若者の文化、コミュニケーションに合わせた学生相談のあり方を今後も検討していきたいと改めて思った。

- ・人の命にかかわる相談は非常に重たいもので、支援者の消耗も大きいもののように思える。相談者をどのようにサポート、ケアしていけるか、どのようにリエゾン等していけるか、日頃から考えていきたいと思う。
- ・新たに知ったこと、振り返りが出来たことがあり、とても良かった。
- ・小～高校生の自殺の原因がいじめではなく、親子関係や学業、学校関係だと知り、気をつけようと思った。
- ・実際の支援場面で具体的な対応をわかりやすく学べたことは貴重な時間になった。
- ・支援側も深刻な相談には、バーンアウトしやすい、ということはまさに直面している問題だが、事例検討などしながら抱え込まない体制を作り、対応していこうと思った。
- ・若者が SOS を出しやすくするためにも、「スティグマ」を何とかしたいと思った。

②日時：12月16日（木）13:30～16:30

内容：心の課題解決ワークショップ

LEGOシリアスプレイ×CBT

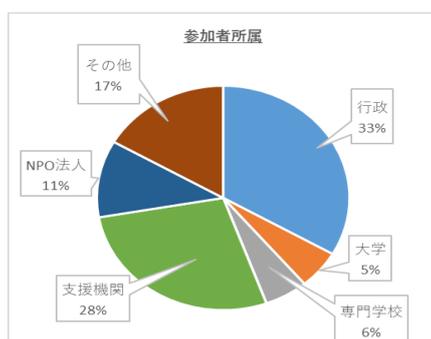
講師：高橋 由佳（NPO法人 Switch 理事長・精神保健福祉士）

【内容】

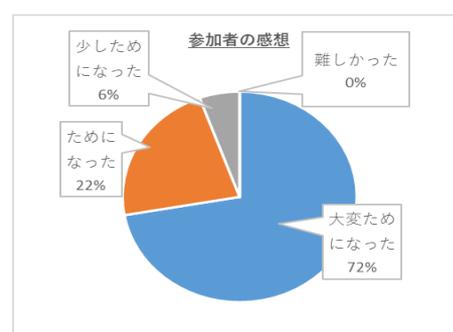
レゴ・シリアスプレイは組織、チーム個人がファシリテーションを受けながら思考、コミュニケーション、問題解決を行うテクニックであり、経営、組織開発、心理、学習などの分野の幅広い研究成果を活用し、「ハンド・ナレッジ（手の知識）」という概念に基づいたものである。今回のセミナーでは認知行動療法をベースに、レゴを使いながら自己の感情や思考パターンを知り課題解決に活かしていただく内容とした。

【アンケート結果】

<参加者所属>



<参加後の感想>



【講座参加者の声（一部抜粋）】

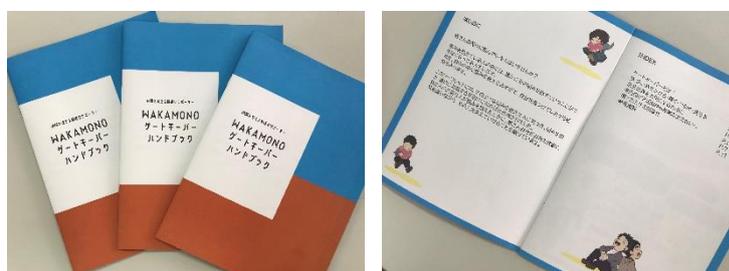
- ・自己覚知ができたと思う。言葉で聞くより、理解が得られた。
- ・グループワークで、他の参加者との意見交換ができたのが良かった。
- ・仕事だけでなく個人（自分自身）の気づきもありとても勉強になった。

視点を多角的に持つことによって、その見方が違ったものとして見えることが理解でき、大変参考になった。

- ・手を使い、視覚を使い、自らの思考パターンを知れたので楽しくすごせた。
- ・他の方の思考パターンなどを知ることから、自分でも気づくことがあった。
- ・初めて参加し、「気づき」にも様々な方法があると改めて実感した。
- ・同じ感情を表現するのに、これほど各々の個性が出るのに驚いた。そもそも同じ感情ではないのだということを認識できた。
- ・ポジティブなグループワークになるような進行だったので楽しんで取り組めた。機会があれば、また参加したい。

2) 普及啓発内容

「WAKAMONOゲートキーパーハンドブック」の作成（別冊添付）



若者へ広く自死予防に対する取り組みを知っていただくための普及啓発の一環として作成。身近な人に関心を持ち、悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聴き、時には必要な支援につなげ見守ることができる身近な若者サポーターを増やし、学内や地域でともに支えあえる温かいコミュニティ作りをるための一助となるための内容とした。今後ゲートキーパー養成講座の開催大学を増やすために、大学生ゲートキーパー養成講座の取り組みも盛り込み各大学への紹介ツールとしても使用できる内容にした。

【内容】

- ・ゲートキーパーとは？
- ・気づく・声をかける
- ・自分自身を大切にするために
- ・学内のピア活動から地域の支えあいへ
- ・困ったときの相談先
- ・参考資料

【配布】

支援会議参加大学・専門学校・支援機関などへ配布（2000部）

3) 若者こころの支援会議

1 開催概要

回	月日	議題	参加者数
---	----	----	------

1	7月8日	各大学における自死予防対策について	8名
2	10月17日	ゲートキーパー養成講座の授業内容について	14名

2 出席者

第1回 参加団体

尚綱学院大学人間心理学科

東北工業大学ウェルネスセンター

仙台大学学生相談室

石巻専修大学事務部事務課

東北生活文化大学 学生課

認定 NPO 法人 Switch

一般社団法人ワカツク

第2回 参加団体

尚綱学院大学人間心理学科

仙台大学学生相談室

東北医科薬科大学教養教育センター

東北文化学園大学医療福祉学科

東北文化学園大学学生相談室

宮城教育大学学生相談室

宮城大学大和キャンパス学生相談室

宮城大学太白キャンパス学生相談室

認定 NPO 法人 Switch

宮城県保健福祉部精神保健推進室

一般社団法人ワカツク 代表理事

3 実施内容

県内4年制14大学の主に学生相談室や学務課、教授等に対し本事業への連携を働きかけ、支援会議へ招集した。今年度は各大学との関係作りをベースに、課題の共有と対策について話し合う場とした。

第1回目は自死予防対策の現状や外部からの支援ニーズについて意見交換を行った。学生へのメンタルヘルスの取り組みは各大学で各々取り組んでいるが、自死予防対策については必要性は感じていても施策としての実施はない大学が殆どである現状があった。

第2回目はモデル事業で実施するゲートキーパー養成講座のコンテンツについて模擬授業を行い、内容についての意見交換を行った。意見として内面に踏み込んだ内容なので気持ちを揺さぶられる学生もいると思うので、セルフケアの視点も重視し、又学内の学生相談室の利用・他機関の紹介先なども入れて丁寧に進めてほしい等の意見が挙がった。

広報については、授業内で取り入れる、春のオリエンテーションや学科のガイダンスに取り入れる、まずは教員向けのFD研修に取り入れる、など様々な意見が挙がった。

【第1回】

- ・主催挨拶：Switch 高橋
- ・各大学より自己紹介
- ・事業趣旨説明：宮城県保健福祉部精神保健推進室 石川
- ・意見交換
 - ・現在の自死予防対策の現状
 - ・大学生向けに効果的な広報について
 - ・外部からの支援ニーズについて

【第2回】

- ・主催挨拶：Switch 高橋
- ・各大学より自己紹介
- ・事業趣旨説明：宮城県保健福祉部精神保健推進室
- ・大学生ゲートキーパー養成講座モデル授業概要説明：Switch 小関
- ・大学生ゲートキーパー養成講座模擬授業：Switch 加藤
- ・模擬授業の内容について意見交換
- ・今後のスケジュールについて

【宮城県障害者職業開発校 委託事業】

2019年度短期委託訓練（集団訓練）セルフケアマネジメント科宮城障害者能力開発校の委託を受け、精神障害・発達障害のある方に特化した公共職業訓練を宮城県にて初めて開催した。

開催時期：2019年11月20日（水）～12月25日（水）受講者：2名

受講後3ヵ月以内の就職には結びつかなかったが、セルフケアマネジメントを公共職業訓練として開催できたことは大きい。

他県からもセルフケアマネジメント科について問い合わせがあり注目度も高い。新型コロナウイルスの影響も大きいですが、今後の実施についても柔軟に開催できるよう宮城障害者能力開発校と連携しながら進めていく。

（3）助成事業

■2019年JT NPO助成金 「2019年度「心のコミュニティカレッジを通じた障がい者の就労定着支援事

業【第三期】最終期

●課題 弊法人は精神がい者等の雇用支援をしているが、全就職者の約半分は、疾患・障害を非開示で働くという選択をしている。非開示の就職者の定着率は、開示の方と比べ半分以下となり、大きな差がある。定着を即すためには、企業・社会全体の多様性理解が広がることが必須である。私たちは「はたサポ」という、こころのコミュニティカレッジを用意し、その機会を通じて多様性理解の促進につなげたいと考えた。特に、精神障害者だけでなく、支援者や障害者、不調の人を支える立場にいる人も、メンタルヘルスと上手に付き合っていく（セルフケア）という意識が薄いことを課題と感じていた。

2017年同事業【第1期】にてセルフケア支援の効果の立証ができ、2018年【第2期】の事業で共催という形で広域地域での開催ができた。地方圏域では精神障害やメンタル不調へのスティグマが強いことも確認し、継続的に地域の中核機関が取り組むことで、地域には広がっていくことを認識した。2019年【第3期】では、地域主体でのセルフケア支援の実施にとどまらず、地域の担い手の育成、体制づくりを課題とした。

●方法と結果

1【協力団体による主体実施のサポート】

昨年度共催実施した宮城県域の地域団体が、セルフケア講座の講師となり実施したが、一部、全面講師をすることは難しいと意見があり、分担して実施した。やはり、地域が主体となって講師もするとなると、ハードルが高く、回数を重ねる必要があると考える。

2【新団体への講座出張】

出張セルフケア講座の開催。福祉就労支援の団体だけでなく、福祉の様々な支援機関に対して開催することができた。1年目からセルフケア支援を求めている人が多いことは、開催するたびに感じており、機会がないことも繰り返し実感した。また、実施後の支援への活用実績も高く、今後も継続的に開催を望んでいることと、フォローが必要であることが分かった。

3【新しいセルフケア講座の提供】

リカバリー学校は2年目の開催となるが参加者より継続の声が上がっている。また、支援者同士の勉強の場として、リカバリー勉強会を4回実施し、この勉強会自体がセルフケア効果の高い場であることが分かった。

4 【テキスト冊子化】

セルフケア講座をテキスト冊子化し、講座を実施した。参加者には担い手となれるよう、希望者にテキストの配布をしたところ、職場内研修を実施したり、個別支援にとりいれたというアンケート報告があった。講座開催調整に時間を要してしまい、普及のための支援者講座開催がもっと多くできれば、より普及できる機会が作れたと思われる。



上記からも 80%以上の達成はあったと思うが、コロナウイルスの影響により、満員だった講座が中止になったり、地域研修でのフォローが下火になってしまったことが、残念であった。

① 事業実施内容

2019年度はたサポ 事業実施一覧						
	実施日	事業名	内容	枠組み	参加人数	スタッフ
1	7月27日	リカバリーの学校 当事者向け講座	リカバリーの学校	当事者	18	2
2	10月26日	はたサポ石巻 在職者向け講座	セルフケア講座	出張（育成実践）	9	3
3	11月17日	はたサポ栗原 在職者向け講座	セルフケア講座	出張（育成実践）	6	4
4	6月13日	リカバリー勉強会①	リカバリーの学校	支援者	12	1
5	9月12日	リカバリー勉強会②	リカバリーの学校	支援者	12	1
6	11月14日	リカバリー勉強会③	リカバリーの学校	支援者	8	1
7	1月24日	リカバリー勉強会④	リカバリーの学校	支援者	8	1
8	12月7日	はたサポ仙台 在職者向け講座	セルフケア講座	当事者	8	1
9	11月17日	仙精連 当事者向け講座	セルフケア講座	出張	6	1
10	9月29日	県南障害者就業・生活支援センター「コノコノ」在職者向け講座	セルフケア講座	出張	4	4
11	12月17日	県南障害者就業・生活支援センター「コノコノ」支援者向け講座	セルフケア講座	出張（育成実践）	11	1

1 2	1月29日	亙理ありのまま舎 支援者向け講座	セルフケア講座	出張（育成）	16	1
1 3	2月14日	みどり工房 在職者向け講座	セルフケア講座	出張	4	1
1 4	2月22日	仙精連 支援者向け講座	セルフケア講座	出張（育成）	16	1
1 5	3月14日	はたサポ仙台 ヨガ講座	セルフケア講座	在職者20名 参加申込有	中止	2
					138	25



② 事業実施の効果

アンケート実施：セルフケア研修に参加した支援者45名に、研修受講後時間がたってから（事業終了時）、セルフケア支援の活用についてアンケートを実施した。

アンケート45通配布、戻り33通、回収率73%

・【活用の有無】79%の人が研修後も、別の機会テキストを活用した。活用なかった人20%の理由は、「自信がない」であり、研修後のフォローが必要である

・【活用先】支援者の活用先は、自身のセルフケアチェックとして再度活用した人が56%。対象者支援や職場内研修として他者へ活用した人が42%

・【活用方法】活用の際に、新しいテキストを渡して他者へ実施した人は34%

・【活用方法】活用の際に、新しいテキストを渡して他者へ実施した人は34%

それ以外の人は、自分の使用したテキストを見直したり記憶に頼って実施している。

・【活用回数】研修後の活用回数が1回の方は50%、2回以上の方が50%となっている。

・【今後の活用目的や希望】今後の活用については、自身のセルフケア84%と、個別の対象者支援に活用したい72%と非常に高かった。福祉支援者（対人援助）の高ストレス環境から、セルフケアへの意識の高さがある。

アンケートまとめ

・セルフケアの重要性を支援者自身が認識しているが、意識できる機会が少ない。

- ・セルフケアの重要性を認識した支援者は、目の前の対象者や同僚にもその必要性を伝えたいと思いい、行動することができる。
- ・セルフケアを支援に取り入れることや、普及は、それぞれの仕事環境でも実施しやすく、活用されやすい。
- ・より多くの人々が普及対象者となれるように、研修を主催する中核機関への継続的なかわりの実施や、セルフケアをテーマにした場作りが継続されていく必要がある。

●まとめ

普及のための支援者の育成について取り組み、高い効果が出ていたことが分かった。1回の育成研修参加で、自身の職場のメンタルヘルス研修や対象者の支援に取り入れている方も多く、普及がしやすい内容であることが改めて分かった。セルフケアは高ストレス状況や、不調になると意識を向けにくくなるため、セルフケアを意識する場や人が身近に存在することが何よりも重要なことである。セルフケア支援の実施は、その地域で、その地域に住む人を、ありのままに受けいれていくことを体現している。今年度の事業実施で、様々な福祉分野の人が在職障害者に関わらず、様々な人（保護者、一般就労の人、障害児、高齢者、支援者等）にセルフケア支援を実施した。それは、メンタルヘルスの安定に貢献し、障害者の職場定着だけでなく、多様性の理解促進につながっていると見える。

●助成終了後の、展望

- ・セルフケア支援者育成の継続・サポートをする

より多くの地域でセルフケア支援者を育成し、広げてもらうために、活動を継続する。「セルフケア支援者講習」という名称で、講座を企画してほしいという声も頂いており、多くの福祉や企業人事、メンタルヘルス関係者が受講し、自身の支援へ取り入れたり、セルフケア支援を広げていけるようにしていく。

- ・障害者の職場定着につながるよう、引き続き在職障害者やメンタルヘルス不調者がつながれる場を用意する。

(JT NPO 助成金担当 今野・小野)

■NPO等の絆力を活かした復興・被災者支援事業

『宮城高校生『絆力』向上プロジェクト第3期』

・支援対象者：石巻圏域の被災を受けた地域に在住している高校生を中心にサポート。震災後より不安定な心理状態の生徒、生活困窮、地理的要因により、学校以外の社会接点を作りづらい学生をはじめ、発達障害、グレーゾーン層への対応も実施。学内、学外の相談受付窓口として、学生の不安や悩みに継続して関わる。

- ・実施期間：令和元年 7月 1日から 令和2年 3月 31日まで
- ・実施概要：

「コンポーネント1「Note café」事業」

内容：学校内での就学・就労相談窓口

SST（ソーシャルスキルトレーニング）講座

仙台圏域で育成した大学生ボランティア育成との交流

VRTによるキャリアガイダンスの展開

GATBによる一般職業適性検査の展開

【アウトプット】47回実施 相談対応件数延べ128件

【アウトカム】家でも学校でも相談できない課題を本人たちから引き出し、その後の修学、就労の選択肢を拡大することができた。

「コンポーネント2「沿岸部を中心とした被災高校生の相談窓口の設置と訪問相談体制の構築

開設期間：平成30年7月1日～平成31年3月31日

場所：ユースサポートカレッジ石巻NOTE：宮城県石巻市鑄銭場1-9

ユースサポートカレッジ仙台NOTE：宮城県仙台市宮城野区榴岡1-6-3

内容：高校生の就学・就労相談窓口。高校生向けインターンシップ、有給職業体験プログラムのコーディネート

VRTによるキャリアガイダンスの展開

GATBによる一般職業適性検査の展開

【アウトプット】登録件数109名 相談対応件数延べ292件 学校や関係機関との情報共有計134回 インターン件数34件 メンタルヘルス講座の実施11回

【アウトカム】学校と家との往復になりがちな沿岸部の高校生に対して、第三者の目線から、修学や進路についての対話を促すことで、本人たちの自己肯定感の向上と、地域社会との関りを深める機会となった。

「コンポーネント3」

昨年度の居場所カフェシンポジウムの発展版として、タウンミーティングを開催。ミーティングの結果を受け、「みやぎまなぶはたらくハンドブック」を作成。広く県内の教育、就労支援機関に2000部を配布する。

【アウトプット】「みやぎ若者居場所ミーティング」を実施。教育関係、行政、企業を中心に19名参加。「みやぎユースサポートハンドブック」2000部を制作。配布。

【アウトカム】教育、行政、企業の観点から、高校生を中心とした若者の現在置かれた状況と、今後向かうべき方向性を検討できたことは、今後の宮城県における若者支援の一つの道筋になった。また、ハンドブックを配布したことで、若者の進路選択に向けえの迷いや不安を軽減することが出来たと考えている。

【総合的な事業評価】

今年度の「NOTE Café」事業については学校との連携をさらに強化し、本人との面談でも、より突っ込んだ内容に切り込むことで、本人の具体の将来ビジョンの構築を進めることが出来た。

同時に今回地域の教育関係の方も含むステークホルダーを招いてのタウンミーティングを実施することができたが、その中で実際に令和2年度に学校内での居場所カフェの実施計画を立て始めた私立高校や、連携の可能性を模索できる県内の市立高校の意見も得ることができた。

■公益財団法人東日本大震災復興支援財団 東北復興子ども支援事業

「石巻広域圏子ども・若者支援コンソーシアム事業」

・支援活動名：石巻広域圏に暮らす困窮状態にある子ども・若者のための多機関連携型「ワンストップ総合相談・伴走型アウトリーチ活動」の推進

・活動概要：貧困、不登校、引きこもり、障がい、ネグレクトなど多重的な困難を抱える6歳～18歳の子ども・若者を支えるため、総合相談・アウトリーチ型の事業を石巻広域圏に創出する。

・震災によって地域経済と住居が大きな痛手を負い、三世同居やコミュニティが崩壊し、さまざまな課題が顕在化した。より一層困難に直面しているケースに対して石巻圏域では40団体を超える子ども・若者支援に関わるNPO等及び行政機関が個々に支援にあたったものの、教育と福祉の縦割りや機能しない制度により学齢期、青年期と包括的・継続的に切れ目なく支援を届け続けることが難しく、根本的なケース改善が困難である。

・構成団体

認定特定非営利活動法人 Switch（コンソーシアム構成団体）

公益財団法人地域創造基金さなぶり（コンソーシアム構成団体）

特定非営利活動法人 TEDIC（コンソーシアム構成団体）

・受援者数

合計：（ 122 ）名

内訳…未就学児（ 2 ）名 小学生（ 30 ）名 中学生（ 26 ）名

高校生（ 24 ）名 大学生（ 5 ）名

その他（※属性 社会人・ 12 名 所属なし・ 23 名）

■若者TECHプロジェクト

プロジェクト概要

本プロジェクトは、「すべての若者支援現場に、ICTを学び、ICT学習を通じて成長する機会をつくり、若者の成長可能性と雇用可能性を最大化する」ことをめざして、日本マイクロソフト株式会社と若者支援に取り組むNPOが協働し、若者支援現場で活用できるICT学習のカリキュラムを「開発」し、「検証・ブラッシュアップ」し、「普及」する取り組みです。

2010～2017年度に、同じく日本マイクロソフトと全国の若者支援NPO等が協働して取り組んできた「若者UPプロジェクト」（Word・Excel・PowerPoint等、Office系アプリを中心としたITスキル研修の実施）によるネットワークと知見を土台として、より時代のニーズにマッチしたものとして発展したプロジェクトとなります。

2019年度の展開

・仙台を中心に展開。講座の一つとして定期的に開催。コミュニケーションツールの一つとして「マイクラフト」を活用。ゲームを通すことで、本人の満足感を得やすく、スタッフは対象者の行動観察の一つとして活用できる。

・仙台で特別講座開催。育て上げネット山本さんを講師に招いて開催。

・若者 TECH プロジェクトの拡充を図る目的で、東京、大阪、名古屋、仙台にて体験会を実施。2020年度は参画団体を広げることを目指す。

※東北では、八戸サポステ、秋田サポステ、ビーンズ福島が参加し、拡充の可能性はある。



■メディア掲載

- ・ 5月20日 河北新報オンラインニュースに仙台 NOTE の活動が掲載されました。→ https://www.kahoku.co.jp/special/spe1179/20190520_01.html
- ・ 9月19日 いしのまき NPO 日和にセルフケアマネジメント科の案内が掲載されました。
- ・ 10月10日 「はたサポ石巻」の情報が、みやぎ NPO 情報ネットに掲載されました。→https://www.miyagi-npo.gr.jp/cgi-local/info/part.cgi?type=even&id=20190917193737&ken=167&fbclid=IwAR05RGxVqsBmV65baj_1X27z0xwmaVHtrIwq4JrS0cz0bRM80Ux4S8rmtrg
- ・ 10月11日 石巻かほくに「はたサポ石巻」の案内が掲載されました
- ・ 10月15日 石巻日日新聞に「はたサポ石巻」の案内が掲載されました
- ・ 10月16日 石巻日日新聞に「はたサポ石巻」の案内が掲載されました。
- ・ 12月16日 「2019年度“チャンピオン・オブ・チェンジ”日本大賞」表彰式を女性雑誌 25ans が掲載してくださいました。→<https://precious.jp/articles/-/15891>
- ・ 2月28日 CFC クーポンを活用した「高校生はたらく応援パック」について、チャンス・フォー・チルドレン様のブログにて、Switch のインタビュー記事を掲載していただきました。第一弾→<https://cfc.or.jp/archives/column/2020/02/21/25513/>

第二弾→<https://cfc.or.jp/archives/column/2020/02/26/25767/>

■プレスリリース

- ・ 6月18日 「高校生はたらく応援パック」7月開催～高校生向け就活応援講座をスタート～
- ・ 7月5日 Minecraft Windows 10 Edition を活用したコミュニケーション講座 若者支援現場でICTを活用